

あいちゼロカーボン推進協議会 2022年度活動概要および WGについて

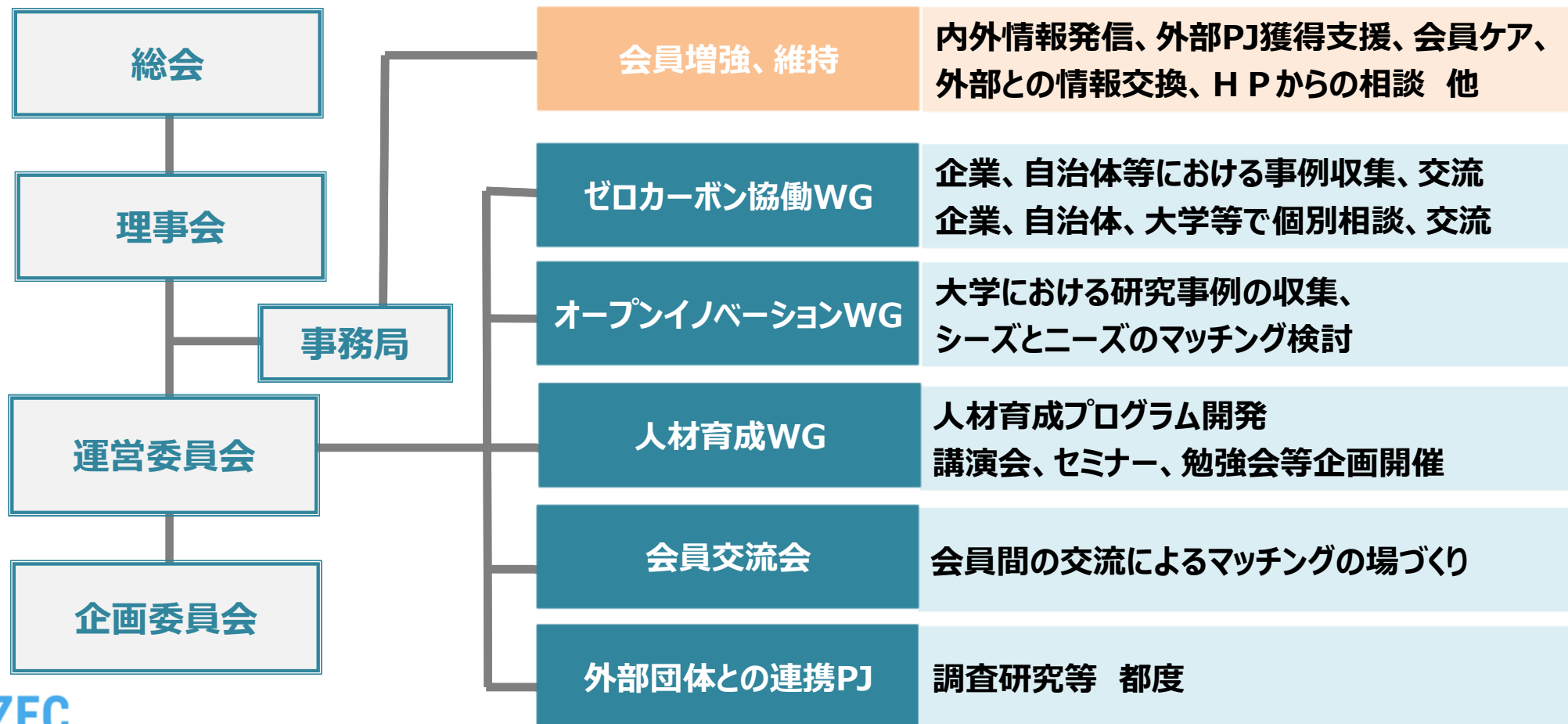
2022年4月13日

あいちゼロカーボン推進協議会
事務局



1. 2022年度の推進体制と活動テーマ

(1) 推進体制



(2) 活動テーマ

ワーキング活動

1 : ゼロカーボン協働

以下の観点から、ゼロカーボンシティ、ゼロカーボン企業並びに気運醸成WGを一体化してWGを再編

- ・企業でのゼロカーボンの事例、自治体の取組事例の収集による活動の活性化
- ・企業並びに自治体のゼロカーボンへの悩み事、課題の共有と解決につながる交流の場
- ・上記を踏まえた一元的な情報発信と企業自治体一体となった気運醸成

2 : ゼロカーボンオープンイノベーションの具体化

- ・産学行政連携につながるシーズの見える化、発信とマッチング

3 : 人材育成

- ・学生から社会人まで継続的に学べる場とそのプログラムの提案と創設
- ・個別テーマによるセミナー、勉強会の開催（WG横断で連携）

新規活動

1. ゼロカーボンの実現支援、相談

会員間の交流によるマッチングの場を作りゼロカーボン実現を支援

2. 外部団体との連携、外部資金活用による調査研究の強化

地域ゼロカーボン、ゼロカーボン社会像など協議会単独では困難なテーマを中心に外部と連携

2. 活動計画

(1) 運営委員会 メンバー

	委員長	名古屋大学 副総長 水谷 法美
	副委員長	愛知工業大学 総合技術研究所 教授 田川 智彦
	会長指名による メンバー	愛知工業大学 総合技術研究所 教授 近藤 元博 株式会社野村総合研究所 コンサルティング事業本部 パートナー 近野 泰 株式会社エックス都市研究所 中部事務所 所長 嶋影 徹 株式会社ウェイストボックス 代表取締役 鈴木 修一郎 野村証券株式会社 名古屋コーポレート・ファイナンス部 部長 武 英直 名古屋大学大学院 工学研究科 教授 未来材料・システム研究所 所長 成瀬 一郎 豊田通商株式会社 ネクストモビリティ推進部 次世代エネルギーグループ GL 松澤 陽生
	ゼロカーボン協働WG	名古屋大学大学院 工学研究科 准教授 小林 敬幸
GL	オープンイノベーションWG	名古屋大学大学院 工学研究科 教授 小橋 眞
	人材育成WG	愛知工業大学 情報科学部 教授 小野木 克明



(2) ワーキンググループ活動

各ワーキンググループにおける、
活動概要、ミッション、活動の方向性、成果の評価・発信活動、
及び、2022年度活動計画

- ① ゼロカーボン協働WG <<https://forms.office.com/r/A8hXbGhzmN>>
- ② オープンイノベーションWG <<https://forms.office.com/r/4yUna8Ammu>>
- ③ 人材育成WG <<https://forms.office.com/r/8NJ23gMuLx>>

※新たに参加者登録を行います。活動概要をご確認いただき、ご参加希望の方は、それぞれのURLをクリックしていただき、ご登録をお願いいたします。同じ所属先から同じWGへの複数名のご参加の場合や、お一人が複数のWGへのご参加の場合は、お一人ずつそれぞれのWGへのご登録をお願いいたします。

① ゼロカーボン協働WG

リーダー：名古屋大学大学院 准教授 小林 敬幸

サブリーダー：株式会社エックス都市研究所 所長 嶋影 徹

概要

愛知をはじめとする中部地区は、工業から農林水産業まで様々な産業が盛んであり、ロジスティックスや交通、人流拠点として、カーボンニュートラルに向けては多くの要素が織りなす社会構造を有します。一方、カーボンニュートラルの実現には、産官学、住民の全てのステークホルダーが、実現目標の2050年の未来社会像とそれまでの時間軸を含むロードマップを共有し、活動を進めることが求められています。

本WGでは、サプライチェーンを支える多くの中小企業をはじめとする事業活動の革新を支援し、また、脱炭素を促す新しいライフスタイルを促進する自治体行政を支える仕組み創りを、多方面のセクターのプレーヤーが協働しながら進めます。

ミッション

個人や個別企業だけでは進められない企業の事業活動の革新を支援し、また、住民の脱炭素型ライフスタイルの形成を促進する自治体行政を支える仕組み創りを、多方面のセクターのプレーヤーが協働して創っていきます。

活動の方向性

1. 地域を支える産業のサプライチェーンを構築する企業の、脱炭素化に向けた中長期計画の作成支援
2. 地域循環共生圏の創出を通して脱炭素化を図るための、中長期計画と具体策の作成支援。
3. 脱炭素化を支える地域資源やインフラの活用と開発。
4. 脱炭素化を支える技術者／企業ネットワークの構築
5. 地域間／企業間協働事業の促進

成果の評価・発信

サプライチェーン、バリューチェーンを構成する企業間や、自治体と住民間の交流の場を提供し、常に中長期計画のレビューと見直しを図る。

2022年度活動計画 ゼロカーボン協働WG

1. 協働事業のニーズ収集と情報交換

- WG会議開催
- 企業のシーズ技術（熱，電気，IOT，AI）の整理集約
- 自治体の脱炭素ロードマップの調査と情報整理
- サプライチェーン企業の脱炭素への具体的取り組み事例の情報化
- 個別のサプライチェーン企業の脱炭素化行動計画の調査
- 優れた脱炭素技術の発掘調査
- 国内外の脱炭素最新トレンド情報提供

2. 共同事業の実施支援

- 個別サプライチェーン企業の脱炭素化事業の支援
- 脱炭素化補助金の情報提供
- 脱炭素化補助金の獲得準備支援
- 先進脱炭素化企業，自治体の訪問見学会
- 脱炭素化技術を集約した展示会（県内展示会で共同実施など）

② オープンイノベーションWG

リーダー：名古屋大学大学院 教授 小橋 眞

概要

ゼロカーボン社会を実現するために必要は課題は多種多様です。再生可能エネルギー要素技術、熱マネジメント技術、軽量化技術、エネルギー変換技術、CO₂固定化技術などのように工学が解決すべき課題だけでなく、CO₂を排出する工程の合理化、都市システムや交通システム合理化、法整備、国際戦略など情報学、環境学、経済学、法学など学際的な取り組みが不可欠です。これら学際的な課題を総合的に取り扱い基盤となる知識・情報を社会全体で共有し、共に解決を目指すことによりゼロカーボン社会の実現が加速します。オープンイノベーション推進WGでは、産・学・行政が一体でゼロカーボンを進めて行くために、必要となる基盤の形成を進めて行きます。そのために、県内のシーズ、ニーズを集約して共同研究を促進し、ゼロカーボン社会を共創する場の形成を進めて行きます。

ミッション

2050年までのゼロカーボン化を目指し、その実現ために必要な技術課題・社会課題を抽出する。課題解決のために現在取り組まれている研究、技術開発、システム開発等の情報を収集し、これらが相乗効果をもって連携する共同研究およびコンソーシアムを形成する。コンソーシアムでは基盤技術を共有し、参画メンバーのカーボンニュートラルへの取り組みが加速するための情報を発信していく。

活動の方向性

○メンバーおよびその周辺機関が保有するゼロカーボン実現のための要素技術・関連情報を集約し、産学連携活動を促していく。

【ゼロカーボン実現のための要素技術・関連情報の例】

- ・CO₂固定化技術、軽量化技術、プロセス最適化技術などのゼロカーボンの基盤となる工学分野
- ・ゼロカーボンに向けた社会課題と解決の方向性
- ・海外におけるゼロカーボンへの取り組み事例

成果の評価・発信

- ゼロカーボンに資するオープンイノベーション技術に関するシンポジウム開催（他WGとの共催）
- WGで整理した情報をWebページを通して公開

2022年度活動計画 オープンイノベーションWG

1. オープンイノベーションの基盤形成

1a) WG会議開催（6回程度）

- 参画大学、企業のシーズ技術情報の整理、情報交換、集約化
- 県内産業とのニーズ・ニーズマッチングのための
- カーボンニュートラルプロジェクトへの応募検討・準備
- WG広報の内容検討（ホームページ掲載内容の検討）

1b) 大型プロジェクトへの応募検討

- プロジェクト公募情報の収集と検討
- WG活動のプロジェクト化検討と申請

2. アウトリーチ活動

2a) オープンイノベーション シンポジウム（1回）

基本テーマ・構成・講師を検討して、対面 & オンラインのハイブリッド開催の準備と実施。2022年度8月ごろに実施予定。

2b) WG合同交流会：他WGとの合同交流会（2回）

2022年7月並びに10月に講演会 + 交流会を実施、対面 & オンラインのハイブリッド開催

2c) 講演会開催（1回）

総会時の基調講演の準備・実施（他WGとの共同実施）

③ 人材育成WG

リーダー：愛知工業大学 教授 小野木 克明

概要

ゼロカーボン社会を実現するにあたっては、それに係るさまざまな課題解決の総体としての視点が必要となる。しかし、これらの課題はいずれも時間的にも空間的にも異なる大きさ・広がりを持っており、しかもそれらが互いに網目状に複雑に関連し合っている場合も多い。したがって、個々の課題を解決するにあたっては、その解決が他の課題解決に及ぼす影響を予め予測し、そのもとで対象とする課題の境界を定めた後、適切な評価に従って解決を図ることが必要となる。このため、この担い手には、既存の知見・技術に加え、俯瞰的に対象をとらえることができる資質・能力も必要となる。

このような観点から、本WGは、企業、大学、行政が協力して、ゼロカーボン社会の実現を担う人材に必要な資質・能力について議論を進め、それを涵養することができる取組みを検討するとともに、その実践をめざすものである。

ミッション

ゼロカーボン社会の実現に向けた人材育成のあり方の検討およびその実践をめざし、あいちゼロカーボン推進協議会員を含む関連企業・機関が現在および将来に渡って必要とする人材像に係る議論を進める。併せて、その育成に関する具体的な取組みについて検討し、場合によっては試行・実践をめざす。

活動の方向性

社会人・大学生を対象としたゼロカーボン社会の実現に向けた人材育成のあり方・取組みの検討

1. 人材育成のあり方・取組の検討：国内外のゼロカーボン人材育成の動向把握
2. カリキュラム・教材等の開発：「ゼロカーボンアカデミー」の具現化
3. 人材育成を通じた産学官人材交流の推進：勉強会、セミナー、交流会を通じた地域に根ざした人的ネットワークの構築
4. 人材育成のネットワークの拡大：外部団体と連携した、人材育成カリキュラムの企画、実行

成果の評価・発信

検討した人材育成取組みの具体化・実践

2022年度活動計画 人材育成WG

1. 人材育成のあり方・取組状況の調査

- ・CN人材育成に向けた、国の動向並びに、大学、地域の動向について調査し、WGメンバーと情報共有
具体的には、大学等CNコアリション、関係団体と連携し情報収集と発信

2. 社会人・大学生を対象としたゼロカーボン社会の実現に向けた人材育成プログラムの具体化

- ・愛知発のゼロカーボン人材育成カリキュラムとして「ゼロカーボンアカデミー」企画の具体化
大学間、企業等の連携カリキュラム（教材、評価等を含む）の構築

3. 会員内外のニーズに即したテーマによる勉強会、セミナーの開催

- ・特定テーマを議論する勉強会の開催 3回/年
（例）省エネ法改正とその狙い、環境省、経産省の2022年取組重点政策と動向
- ・会員内外の取組事例紹介、先進技術動向紹介セミナーの開催 5回/年（一部オープンイノベーションWGとも連携）
（例）廃熱利用技術、水素利用技術、ZEB取組事例紹介、CN先端技術 等
- ・産学官人材交流会の開催 2回/年（ゼロカーボン協働WG/オープンイノベーションWGと連携）
東海地域を中心とした地域に根ざした人的ネットワークの構築促進
- ・有識者講演会 1回/年

4. 外部団体と連携による人事育成カリキュラムの企画と開催

- ・国の委託事業の実施並びに自治体との共催事業の受託、運営
- ・大学、連携団体等と協力したセミナー等の共催